

唐津市立佐志小学校研究主題

思いや考えを認め合い、高め合う児童の育成

～「さし人学習」「ひとみタイム」を軸とした国語科指導方法の工夫～

1 主題設定の理由

本校は長年にわたり、人権・同和教育推進校として児童の心の学びを土台とし、教育活動に取り組んできた。また、学校の合言葉「さし人 ～**さ**わやかあいさつ・**し**っかり読書・**人**に優しい言葉づかい～」の中でも「**人**に優しい言葉づかい」を重点目標としている。現代社会においては急速な情報化が進み、その影響下で社会構造が変化し、人々の価値観や生活様式が多様化している。本校校区においては、児童数の減少、核家族世帯数の増加の傾向にあり、児童と地域の人々とのつながりや、家庭間のつながりが年々希薄になりつつある。本校では2017年度より、校内研究において国語科の指導方法の改善に取り組んできた。小学校学習指導要領国語科の目標には「伝え合う力を高め」という言葉が掲げられている。これは「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めること」を指しており、本校の重点目標を具現化していくうえで重要であると考えた。そこで、研究主題を「思いや考えを認め合い、高め合う児童の育成」と設定した。

「思いや考えを認め合い」とは、「自己理解・他者理解から相手の考えを認める」ことを通して、もう一度自分の意見や考えを見つめ直すことである。「高め合う」とは、その過程で「考えが変容する」「疑問が解決する」「思いが深まる」ことを指し、児童が協働的に学び合うことを通して課題解決ができることをねらっている。

そこで本校では、「さし人学習 ～さあやってみよう・しっかり考えよう・ひとから学ぼう・といなおそう～」や「ひとみタイム」といったPW・GW・CWを意識した学習の流れを大切に授業づくりに取り組んできた。また、互いの考えを伝え合い、深め合う手立てとして、児童の実態に応じたワークシートの工夫や付箋等のツールを用いた交流の工夫を講じてきた。このような取り組みを通して、「分からなかったことが分かるようになった」と実感している児童が増え、「自分と友だちの考えの違いに気付いた」「話し合いを通して自分の考えが変わった」と、「さし人学習」や「ひとみタイム」の有用性を実感している児童も増えつつある。

伝え合う活動をよりよいものにするためには自分の考えをしっかりと持たせなければならない。そのために、国語科の授業だけでなく、授業外の時間を有効に使い基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っていきたい。また、自らの学びの成果を確認（メタ認知）させたり、今後の学習の見通しを立たせたりするために、ふりかえりのさせ方を改善していくことで、児童が自分たちの手でお互いを高め合っていることを実感させることができると考える。

2 研究の目標

自分の考えをもち、他者とのかかわりの中で問題を解決することを通して、児童が自らの高まりを実感することができるような国語科指導方法を探る。

3 研究の仮説

国語科の指導過程と、課外等での活動を関連付け、次のような手立てを取れば、互いに思いや考えを認め合い、高め合う児童の育成ができるであろう。

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるための指導の工夫
- (2) 児童が自分の考えをしっかりともち、よりよく伝え合うことができるようにするためのワークシートの工夫や思考ツールを用いた交流の工夫
- (3) 教師が児童の学びの状況を確認に見取ったり、児童が自分自身の学びの課題や成果を表出したりすることができるような、ふりかえりのさせ方の工夫

4 研究内容と方法

「さし人学習」「ひとみタイム」を軸とした考えを伝え合う活動を取り入れた授業づくり（図1）

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるための指導工夫

- ア 朝の特設タイム「スキルタイム」の活用
- イ 家庭と学校をつなぐ「さしっ子ノート」の活用

- (2) 児童が自分の考えをしっかりともち、よりよく伝え合うことができるようにするためのワークシートの工夫や、思考ツールを用いた交流の工夫

- ア 児童が目的意識や話し合う必然性をもつことができるような課題の設定
- イ 自力解決から伝え合う活動へとつながるワークシート作成
- ウ GWで考えを広げ、深めるための手立てとしての思考ツールの活用

- (3) 教師が児童の学びの状況を確認に見取ったり、児童が自分自身の学びの課題や成果を表出したりすることができるような、評価の在り方やふりかえりのさせ方の工夫

- ア 実態に応じた「ふりかえりのポイント」の設定

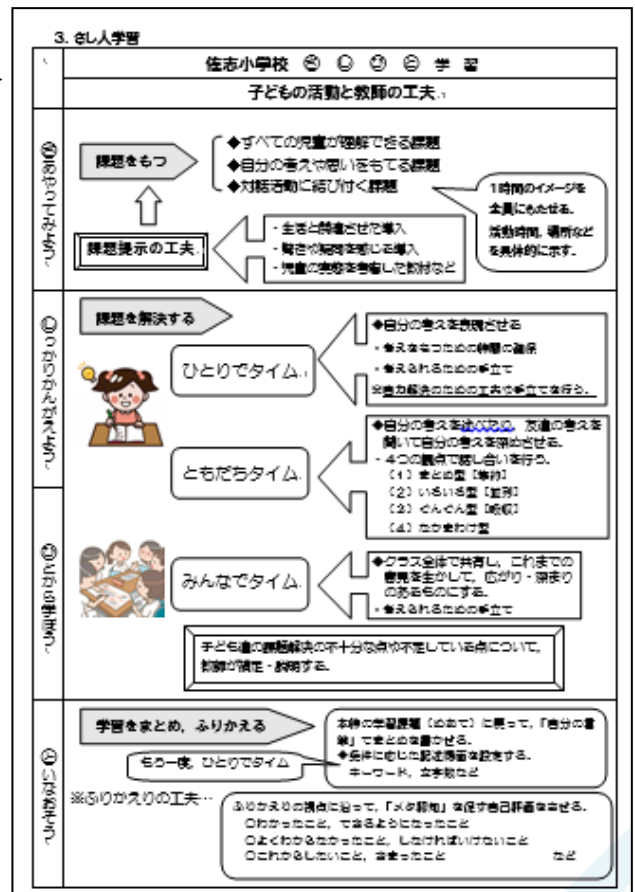


図1 「さし人学習」「ひとみタイム」を軸とした授業の展開

5 年間計画

月	全体会
4/7 (水)	・校内研究① 今年度の校内研究計画提示、共通実践事項
5/26 (水)	・校内研究② 全校研授業者、公開授業者決定及びグループ研の日時 検討・決定 ・児童のアンケート実施と考察
6/9 (水)	・校内研究③ 提案授業（全校研授業1）
6/23 (水)	・校内研究④ 全校研授業2
8	・校内研究⑤ 指導案検討会
9	・校内研究⑥ 全校研授業3
10/20	・校内研究⑦ 公開授業にむけて準備 ・児童アンケート実施
11/19 (金)	・校内研究⑧ 唐津市研究発表会（公開授業）
12/15 (水)	・校内研究⑨ 研究のまとめ提案 ・学調分析 ・児童のアンケート考察
1/19 (水)	・校内研究⑩ 研究のまとめ作成 ・次年度の校内研におけるアンケートの実施
2/16 (水)	・校内研究⑪ 研究のまとめ仕上げ・製本 今年度の成果と課題の確認 次年度の校内研の検討
3	・校内研⑫ 次年度にむけて、校内研の取り組みについて

①研究グループ

低学年・中学年・高学年の3つの学年グループを編成し、級外の教師も各グループに所属する。研究授業後の話し合いは、学年グループで役割分担を行い進める。

②授業について

全校授業者、公開授業者は学年グループより1名。それ以外はグループ授業研を行う。全校研究授業3回（提案授業を含む）、公開授業を3回行う。

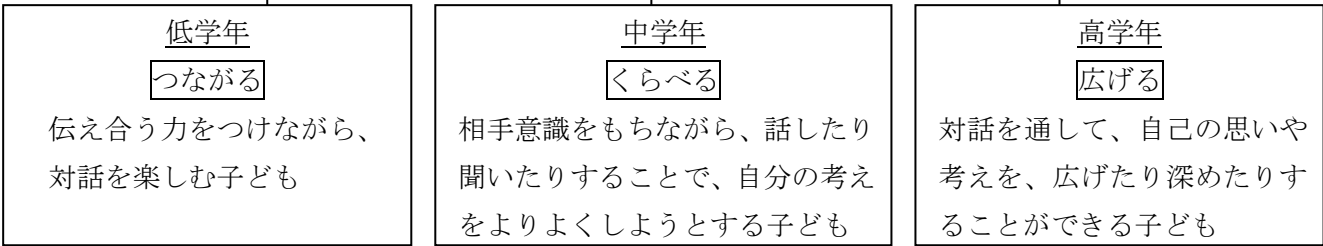
③授業実践の記録

低・中・高学年で役割分担を行い、授業実践の過程や記録を残す。

学校教育目標 「持続可能な社会の創り手となるたくましい児童の育成」
 めざす子どもの姿 「気づき、考え、実行する」子ども

研究主題 「思いや考えを認め合い、高め合う児童の育成」
 ～「さし人学習」「ひとみタイム」を軸とした国語科指導方法の工夫～
研究目標 自分の考えをもち、他者とのかかわりの中で問題を解決することを通して、児童が自らの高まりを実感することができるような国語科指導方法を探る。

【めざす児童像】



【組織】

研究推進委員会（校長、教頭、教務、研究主任、研究部）

まなび部（研究部）	前川、田川、前田
（学習部）	坂口、砂原、榎、井本

